

## 高等部での指導のスペシャリストになる！

## ～進路指導編～

10 月 5 日（金）に行われた第 2 回高等部支部ブロック学習会では、守山養護学校産業科 教務主任の浅井智英先生より、進路指導についてのお話をいただきました。質疑応答の時間には、産業科で担任をされている先生方が参加してくださり、熱く語っていただきました。その後、グループに分かれて事例検討を行い、それぞれのグループで出された意見について発表をしました。

### I 講話（守山養護学校 浅井先生より） 進路指導について

初めに、進路指導とは進路決定の場ではないことや、どのような人間になり、どう生きていくことが望ましいのかといった長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動であること、さらには進路指導とキャリア教育の関係を分かりやすく図で示したものを提示していただき、「進路指導とはどのようなものであるか」をイメージした後に、具体的なお話をいただきました。

「卒業後に幸せな社会生活を送っている人」

こう題してお話してくださった内容は、以下の 5 点です。

- ☆ 元気があること→心身ともに健康
- ☆ 愛されていること→良好な人間関係
- ☆ 目標があること→学び続ける姿勢
- ☆ 自信があること→自己肯定感
- ☆ 楽しみがあること→充実した余暇

参加者に、時々質問を投げ掛けながらの 40 分程度のお話には、進路指導をする上で心掛けるポイントが凝縮されていました。中でも、私達教員の「一つの活動、一つの授業、一つの言葉、一つの指導・支援が生徒の将来につながっている」との言葉に、私達の一挙手一投足ならびに、たった一言がいかに重要であるかといったことを再認識することができました。具体的な指導方針や指導方法は違えども、進路指導への基本的な考え方や教師として心掛けたいことについては、産業科であっても普通科であっても、共通していることはたくさんありますね。

質疑応答の時間には、産業科で担任をしている先生による「特別講話」もあり、貴重な時間となりました。以下に一部を掲載します。

先生自身が「障がい」をどうとらえているか。

「障がい」とは、できないことと捉えられがちだが、そうではない。

自分が「自己理解」しなさいと促されたら？自己理解は他者理解を進めていく中で育っていく。

言葉を抽象的に終わらせない。たとえば、「他人の良さを認めよう」といった内容を取り扱うなら、その言葉の意味を正しく理解できるようにする。

ほかにもたくさんのお話をいただきました。



## 2 グループ協議&共有タイム

普通科の事例「保護者や本人の希望と、本人の実態から考える担任の思いが違う場合」といったテーマでグループ協議を行いました。

浅井先生の講話の内容を踏まえ、およそ15分間意見を出し合いました。各自の考えを付箋に記入し、複数の意見を幾つかの 카테고リーに分類したグループや、保護者との連絡の取り方に着目して話し合うグループなど、短い時間でしたが、話を深めることができました。

参加者からは、「就職に関する情報提供」「就労体験」「本人への働き掛け方」などといった内容の意見がありました。それぞれのグループで話し合った内容を簡単に発表することで共有し、その後、それぞれのグループの協議内容が書かれた用紙を交換することで、他グループで検討された内容を確認しました。その中で、本人の働く意欲を高めていくことへの課題点や、企業は実習を受け入れてくれるのだろうかといった新たな疑問点についてお互いの意見を交わす場面もあり、充実した時間となりました。



### ☆ アンケートより

今後、愛される生徒の育成を目指して指導していきたいと思えます。

子どもが将来幸せな人生を送ることができるようにという認識をもとにした支援が必要であると再認識しました。

就労に向け、具体的に他者を認める実践の例、メモを取るにあたっての実践の例を教えてくださいととても参考になりました。自己理解についての考え方も参考になり、今後の指導に生かしていきたいと思えます。

他の特別支援学校の先生方の意見を聞くことができたことが新鮮でした。

### ☆ 次回のお知らせ ☆

**日時・場所**  
**テーマ**

**11月15日(木) 18:30~**  
**「授業上達への道」**

**西養護学校 会議室**

西養護学校 教頭の白木則和先生より、新学習指導要領にある、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善といった視点を踏まえた授業づくりのポイントについてお話をさせていただきます。

また、今年度より各校に配付された**タブレット端末の活用法**について、情報教育担当の先生とタグを組んでお届けします。参加された先生方には、タブレット端末にどんどん触っていただき、明日からの授業に生かすためのヒントを得ていただけるのではないかと思います。みなさまのご参加をお待ちしております。

(文責 南養護学校 鈴木優子)